

平成29年度第1回防府市廃棄物減量等推進審議会 議事概要	
開催日時	平成29年11月24日（金） 13時30分～15時00分
場 所	防府市クリーンセンター 可燃ごみ処理施設2階会議室
出席者	<委員> 広石委員（会長）、土井委員（副会長）、阿部(幹)委員、秋本委員、弘中委員、平野委員、渡邊委員、大谷委員、梅田委員、磯野委員、黒田委員、今村委員、荒川委員、柴田委員 ※欠席：大村委員、松永委員、高山委員、阿部(新)委員、時乗委員
	<行政> (事務局) 岸本生活環境部長、大田生活環境部理事兼クリーンセンター所長、金澤所次長、石井所次長補佐、吉川施設管理室長、前田庶務係長、原田調整係長、河原主任、品川主任
傍聴者	1名

- 1 開会 <省略>
- 2 生活環境部長あいさつ <省略>
- 3 会長・副会長選出
会長 広石委員 副会長 土井委員
- 4 会長・副会長あいさつ <省略>

5 審議

(1) 報告 防府市ごみ処理基本計画について

(事務局) <防府市ごみ処理基本計画による説明>

(委員)

災害廃棄物処理計画の策定についてですが、防府市は過去にも大きな災害を経験しており、その際のごみ処理等についての資料があれば、計画の策定に活かせるのではないかと思います。

(事務局)

本市で平成21年に発生した豪雨災害の発生状況や処理状況等についても踏まえた上で、防府市災害廃棄物処理計画を策定する予定としております。

(委員)

防府市ごみ処理基本計画にある数値目標について、何パーセントや何グラムといった表現では市民にわかりにくいので、もう少し違った表現にしてはどうでしょうか。

(事務局)

数値目標については、これからも啓発を行う上で、より具体的な例示にする等のわかりやすい表現に努めます。

(委員)

リサイクル率の分子であるリサイクルしたごみの量には、資源回収業者による回収や店頭回収されている資源物の量も含まれているのでしょうか。

(事務局)

リサイクルしたごみの中に、集団回収以外の資源回収業者による回収や、店頭回収による資源物の量は入っていません。

(委員)

それならば、平成27年度実績のリサイクル率の計算は、クリーンセンターで処理したものだけで行っており、防府市全体での実際のリサイクル率はもっと高いということでしょうか。

(事務局)

そのように考えられます。

(2) 報告 平成29年度防府市ごみ処理実施計画について

(事務局)

<平成29年度防府市ごみ処理実施計画による説明>

(委員)

ごみ減量化に向けた平成29年度取組方針の中にある、「No.29 搬入物検査の実施」について、説明では事業系可燃ごみについて持ち帰り指導をした件数が78件とのことでしたが、これはどのような違反で、どのような処置を講じたのでしょうか。

(事務局)

事業系一般廃棄物として持ち込まれた可燃ごみの中に、廃プラスチック類などの産業廃棄物が入っているという違反が最も多く、処置としては、現場で適正な処理について口頭指導を行い、対象の廃棄物については持ち帰るよう指導しています。

(委員)

違反行為について、再発防止策は何か講じていますか。

(事務局)

再発防止策としましては、何度も違反を繰り返すような場合には、搬入許可を取り消すといった処分を行うこととなります。これについては、要綱で定めておりますが、これまでに許可を取り消したという事例はありません。

(委員)

ごみ減量化に向けた平成29年度取組方針の中にある、「No.31 高齢者等ふれあい戸別収集の実施」について、これは、クリーンセンターが行う高齢者等の世帯の戸別収集ということですか。

(事務局)

そのようになります。高齢等が原因で、自分でごみステーションまでごみを出せない家庭に職員が出向いて、ごみを収集するという制度になっております。

(委員)

防府市内で自主搬入をしている自治会が約70団体というのは少なすぎませんか。私の住む自治会では自主搬入を行っており、その際に、高齢者等のごみ出しを手伝っており、他の自主搬入を行っている自治会でも同じようなことをしていると思われる。市以外が行っている高齢者等のごみ出し協力を行っていると思われる自主搬入の自治会が70団体というのは少ないと思いますが、いかがでしょうか。高齢者等のごみ出しが困難な世帯はたくさんあると思いますので、地域における共助としての自主搬入自治会を増やす方法を考えていただきたいと思います。

(事務局)

自主搬入未実施の自治会の内、世帯数が100世帯を超える自治会について、平成28年度、平成29年度に、自主搬入に参加いただけないかといった研修会を行っています。

高齢者等ふれあい戸別収集につきましては、ヘルパーやケアマネージャー、市の福祉部局とも連携して実施してまいります。また、地域で戸別収集が必要と思われる場合には、情報提供をいただければ助かります。

(委員)

今の御質問について、自治会連合会の立場から補足で説明させていただきますが、自主搬入の制度には、1か月に1世帯当たり100円の補助金が市から出ており、自治会の世帯数に応じて補助金額が決まります。しかし、市内には世帯数が50世帯にも満たない自治会がかなりの数あり、そのような自治会への補助金は月に5000円以下となります。そして、自治会によっては、その中からトラックのレンタカー代等を支払うことになり、自主搬入を行うことによって自治会の会計を圧迫することになるため、自主搬入の実施を見送る自治会も多いと思います。そのため、自治会連合会として、市に対して、小規模自治会に自主搬入を実施するためのイン

センティブが働くような制度の改正をお願いしているところです。

また、自主搬入制度においては可燃ごみの処理はできませんので、そこが、高齢者等ふれあい戸別収集とは異なる点となっています。

(議長)

ほかに御質問はありませんか。先に説明がありましたごみ処理基本計画についても、ごみ処理実施計画についても構いませんので、なにか御質問はありませんか。

(委員)

平成29年度防府市ごみ処理実施計画の平成29年度取組方針の中にある、「No.5 小中学校を対象とした出前講座の開催」についてですが、これはまだ実施されていないということでしょうか。

(事務局)

今年度は実施に至っておりませんが、校長会等では説明を行っており、来年度からは授業へ組み込むことは可能なのではないかと考えております。

(委員)

小学4年生で環境教育のカリキュラムがあるのであれば、学校で講座を行うことで、防府市として、よりごみの減量化等が進むのではないかと思います。

(事務局)

校長会におきましても、パッカー車による実際のごみ収集の状況等を見せてもらえるのか等といった質問も出ており、来年度からは授業の中で出前講座を実施できるのではないかと考えております。

(委員)

山口市では、市役所など色々なところで、電池などを回収するステーションがあるのですが、防府市として、そのような場所を作るといった考えはあるのでしょうか。

(事務局)

山口市の事例は、各地域の総合支所等に設けられている資源ごみステーションのことではないかと思われまます。防府市の場合は、市役所や各出張所等に小型家電の回収ボックスを設けてはおりますが、山口市のような資源ごみのステーションは設けておりません。その理由といたしましては、店頭回収が県内でもかなり進んでいるということが挙げられます。回収事業者によっては24時間回収可能としておられるところもあり、市内における資源ごみの排出場所は多いと思われまます。

また、乾電池などの危険ごみにつきましては、現在、月に1度の資源ごみ・危険ごみの日に回収をしておりますが、危険ごみを出していただく環境といたしまして、

誰か人がいらっしゃる場所での排出・収集ということを考えておりますので、無人のステーションを設けるといふところまで至っていないというのが実情でございます。

(議 長)

ほかに質問がなければ終わりたいと思いますがいかがでしょうか。

ほかにはないようですが、事務局から何かありますか。

5 その他

3010 運動への協力の依頼について

(事務局)

<資料による説明>

(議 長)

ただいま事務局から、3010運動等についての説明がありましたが、これについて何か御質問等がありますか。

(委 員)

お願いなのですが、食べきり協力店を増やすということも重要なことだと思いますが、そのほかにも、ドギーバッグという、食べ残したものを持ち帰るための簡単に畳めるバッグというものがあまして、食品ロスの削減に有効な方法です。食品の持ち帰りについては食中毒などの問題もありますが、生物は持ち帰らないなどの配慮をした上で、こういったドギーバッグの利用も薦めてみてはいかがでしょうか。

(議 長)

御要望ということで、よろしいでしょうか。

ほかに御質問等なければ、これで審議会を終了したいと思います。

6 閉会